



「つながる思い まちの絆」

# ふるさとだより

2012 年

10

月号  
No.17

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

## 久之浜・大久

新しい久之浜の歌 練習始まる  
地域づくり協議会 石川町の祭り視察

## 四倉

わくわくしごと塾よつくら編開催  
ニイダヤ水産が営業再開

## 平

夫への思いを胸に書道に励む 金成さん  
豊間地区復興祈年祭開催

## 小名浜

ワークショップを通して学ぶ 江名中学校  
200年後の未来にメッセージ

## 勿来

地元のみんなで作りあげた「佐糠町八幡神社」  
楽しく歌って、笑顔いっぱいのお楽しみ会

[写真上] 秋風が吹き始めた 9 月 28 日早朝、今年はじめてのサンマの水揚げがありました。操業自粛が続く漁業関係者にとっては、希望の「秋の味覚」。江名漁港所属の「第 38 福吉丸」が北海道根室沖で獲ったサンマ 70 トンがその場で競りにかけられ、港は久しぶりに活気づきました。

[写真下] 平豊間、薄磯、沼ノ内が一体となって行われた「豊間地区復興祈念祭」。9 月 29、30 日の両日、豊間小学校はたくさんの人であふれました。子どもたちが制作した映画を車の中で楽しめる「ドライブインシアター」のほか、マジシャンの中島弘幸、ファイヤーパフォーマーの成龍などの多彩なステージが繰り広げられ、会場では笑顔の花が咲いていました。

[背景] 四倉海岸での凧揚げ大会には、愛好家や家族連れが集まり、色とりどりの凧が秋の空に舞っていました。



# 新しい久之浜の歌を作ろう、歌おう、奏でよう! part2

僕は生まれた  
浜風吹いて 貝殻ゆれて  
光の波立ち君と生まれた  
おかげり おかげりなさい  
いつも生まれたまま  
おかえり おかえりなさい  
久之浜に帰れば  
ほら、命がうたつて  
わしたちのふるさと



5人のアーティストによって“新しい久之浜の歌”がお披露目されました

9月15日、「いわき芸術文化交流館アリオス」のおでかけアリオス「タイムカプセル2012」のワークショップでは久之浜第一小学校体育館で行われました。前回7月14日のワークショップでは久之浜の名所や情景など様々な言葉選びが行われました。それを元に桑原滝弥さん(詩人)が作詞、谷川賢作さん(ピアノ)が作曲して遂に新しい久之浜の歌が完成です。

季節は芸術の秋本番。11月24日の久之浜・大久地域づくり協議会主催の「まちづくりコンサート」での発表に向けて、谷川さんから指導を任せられた音楽教室(ボケット)の坂本登美子さんのもと、練習が続けられていました。詳しい練習日程は最終面をご覧ください。



子供から大人まで、作曲家谷川さんの指導で練習が始まりました

出席者は各自楽譜を手に、いよいよ練習が始まりました。最初の1時間は小学生も交えての練習。谷川さんら5名のアーティストのミニライブをはさんで大人たちの熱のこもった練習が続きました。

真夏の歌詞づくりから、  
効果的な除染法の検証のため市により行われた除染モデル事業。その1軒に新妻さん宅が選定されました。そして、除染作業が始まつたのが6月27日。雨どいの洗浄、土の入れ替え、津波から家を守つてくれた竹の伐採などが行われました。

波立海岸から約50m、田之網字浜川。竹林に囲まれて、新妻英雄さん宅はありました。「海水が2m近く入ったけど、家が無事だったのは竹林のおかげかな」と新妻さん。今は山田町の借家で生活をしています。「いつまでも家を借り続けられない、田之網に戻ろうって家の片づけを始めた。線量計で放射線量を測つてみたら、家の裏で4マイクロシーベルトを示した所があった。それからが大変だつたね」。



田之網・新妻英雄さん

## 区長に聞く

北町区長  
鈴木 豊さん

区長になつて12年。久之浜で一番長く任期を務めています。避難して来つた人が少しづつ戻つて来つつあるけど、震災で多くの人に町に戻つて来てほしいね。私も81歳。復旧そして、除染作業が始まつたのを聞き、心配していました。それで、除染作業が始まつたのを確認するため、6月27日、雨どいの洗浄、土の入れ替え、津波から家を守つてくれた竹の伐採などが行われました。



除染開始日6月27日の新妻さん宅(右)と除染後(左)。母屋を取り囲み植えられていた竹や庭木の多くが取り除かれました。除染の結果、室内の空間放射線量が平均 $0.27 \mu\text{Sv}/\text{h}$ から $0.18 \mu\text{Sv}/\text{h}$ に軽減。屋外では、平均 $0.57 \mu\text{Sv}/\text{h}$ が $0.19 \mu\text{Sv}/\text{h}$ となるなど除染の効果が確認されました

「作業してくれた人をはじめ、みなさんに感謝です。除染が始まるのを多くの人が待っている。除染が進んで、若い者も安心して戻つて来られるようになつて欲しいね。除染結果を女房に言つたら、「その位減つたら、大丈夫かな。田之網に戻ろくな」つて。以前は絶対に戻らないつて言ってたんだけどね」と笑いながら話してくれた新妻さん。今日も生まれ育った家に戻る日に向けて、修繕作業を続けています。

## 除染の結果 放射線量が軽減

「作業後も線量が思ったほど下がらなくて、土の入れ替え範囲を広げてもらい、予定になかった竹の根の掘り起こしもしてもらいました」。当初2週間程度の予定だった除染作業は約1ヵ月半に及びました。

# 生まれ育った家に戻りたい



## 久之浜・大久の みなさんへ

高木京子さん

地震と津波から3日後、海のすぐそばにあった自宅を見ても、夢を見ているようでした。それよりも主人（故高木芳夫前いわき市議会議員）が行方不明でしたから「いないってどうしたこと？」って気が気じゃありませんでした。遺体が見つかっていないので、現実をまだ半分受け入れられない感じです。久之浜に対する思いが人一倍強い人でした。命はなくなってしまったけど、今も地域の人の心に残っている幸せな人ですね。先の選挙で久之浜にも後継者（木村謙一郎さん）が生まれ、バトンを渡せて主人の思いもつながったかなってホッとしています。

久之浜だけじゃなく復興には若い人の力が必要。年配の人の経験と意見も取り入れて、みんな一緒にまちづくりを進めていってほしいですね。久之浜に来ると、なじみの顔をはじめ多くの方に会える。久之浜のみなさんとのつながりは、主人が残してくれた私の宝物です。



『飯中つながりプロジェクト』のリーダー  
飯綱中学校  
生徒会長  
藤井大君

福島へ行き、自分で見ることの大切さがわかりました。家の玄関や風呂場など、人が生活していた所がそのまま残っているのを見て、改めて震災の大きさを実感し言葉が出ませんでした。海へ出て堤防に立ち津波が通り過ぎて行ったことを想像し、生きることについて考えました。今年度の生徒会のスローガンが“つながり”。今日の体験をきっかけに、長野といわきのつながりができて、さらに広がってくれればうれしいです。またいつか訪れたいと思っています。

## 町を挙げての祭りに感銘 地域づくり協議会



揃いの法被の地域づくり協議会のみなさん、37名が視察に参加しました



町中が祭り一色の石川町。高校生も学校の許可を得て神輿パレードに参加しました

9月16日、久之浜・大久地域づくり協議会（木村芳秀会長）が、石川町・中田地区での「ささら」奉納を始め町中で様々な催しが行われ、午後7時半からの「神輿パレード」で祭りは最高潮。「神輿を担ぐ若者の多さに驚きました。

した。子どもから大人まで町をあげてのお祭りは、まさに伝統の力。感銘を受けました」と木村会長。パレード終了後「なおらい」にも参加。海と山との交流が続きました。朝7時に出発した一行が久之浜に戻ったのが午前1時過ぎ。長い一日でしたが、まちづくりのヒントを垣間見ることができました。

8月8日、長野県飯綱町立飯綱中学校の生徒25名が久之浜を訪れ、草刈り作業や被災地観察を行いました。9月29日には同校文化祭で久之浜での活動報告会が行われたそうです。飯綱中学校の生徒25名が久之浜を訪れ、草刈り作業や被災地観察を行いました。9月29日には同校文化祭で久之浜での活動報告会が行われたそうです。



久之浜を訪れた25名の中学生とボランティアのみなさん。オーガニックコットンの綿畑にて

## 久之浜へのメッセージ

長野の中学生から

### 久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成24年9月26日
- 天候:晴れ
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会  
安全専門部会
- 測定器:日立アロカメデカル製  
TCS-172(シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之網(田之網集会所)	0.13	0.12
南町(旧道沿い中央部)	0.11	0.10
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.19	0.19
北町(久之浜駅前)	0.29	0.24
東町(旧久之浜漁協前)	0.16	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.20	0.28
西町2区(久之浜第一小正門付近)	0.20	0.35
金ヶ沢(鹿野付近)	0.56	0.36
末続(末続駅前)	0.28	0.30
大久(大久公民館付近)	0.15	0.17
筒木原(久之浜第二小西門付近)	0.20	0.16
小久(町田橋付近)	0.25	0.17
小山田(小山田集会所付近)	0.33	0.27

単位はすべてusv/h

※(株)東北イノベーターのHP  
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で  
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

## 浜風商店街から 浜風商店街1周年記念祭



昨年の浜風商店街のオープン時と同じく幕開けは地元から

多くの方に利用してもらいたい1周年を迎えることができました。町の区画整理がどう進むかなど不安な点はあります。町にとって商店街は必要なもの。足を運んでくれる人のため、そして、これらの久之浜のため、浜風商店街のみならず頑張つていきたいと思っています。



浜風商店街会長  
遠藤利勝さん



久之浜がんばれ!浜風商店街がんばれ!クラブバスのチアリーダーたちが、エールを送りました

昨年9月3日に誕生した「浜風商店街」。地元の方の日常の買い物や食事、全国各地からの観察団そしてボランティアなど多くの方が訪れます。

しごと塾

# 野菜収穫と大福づくりを体験 漫画化にも挑戦！\*



館内と生産現場を見学  
道の駅の知識を深める

市教育委員会主催の「わくしごと塾よつくら編」が8月23日に開講し、四倉小学校と大浦小学校の4～6年生11名が参加しました。テーマは「道の駅よつくら港つて…どんな駅？」。

同日、子どもたちは道の駅館内を見学した後、2班に分かれて野菜や和菓子の生産者のもとで、職業体験に挑戦。

上柳生の福島裕さん宅ではキヤベツやブロッコリーの種をまいたり、畑でどうもろこしやきゅうり、スイカなどを収穫。

長友の和田和子さん宅では、つきたてのもちを「熱い！」と喚きながらこねて餡を入れ、道の駅名物の大福もちを作りました。

日程を終えて、「朝早く起きて大福を作っていることがわからました」「とても楽しかったです。またやってみたい」と笑顔で話した子どもたち。

作品は11月18日の地域発表会を経て、「いわき・わくわくキッズミーティング2012」(12月22日・市文化センター)で発表します。

## 漫画家気分で職場体験を作品に

24日からは、いわき市出身の漫画家蛭田充さんの指導で、

体験内容を漫画にまとめました。子どもたちは専用の原稿用紙やペンを使っての作業に悪戦苦闘しながらも四コマ漫画、大きな一枚絵用紙2枚にまたがる長編など、思い思いに作品を仕上げました。

22年前、四倉町上仁井田の自宅でスタジオを開きましたが、現在は〈ラトブ〉6階の産業創造館や市内の公民館で教室を開いています。ほか、震災前に富岡町や川内村でも教えていました。

今年は震災後、練習を再開しました。震災後、練習を再開したのは昨年4月。市労働福祉会館に数名の生徒が集まりました。「再開の話を聞きつけて、少しづつ生徒が戻りました。双葉郡からいわき市内で避難生活を送りながら練習を通して来る人もいるんです」と話す。

「女性らしい言葉やぐらの魅力を話します。地域の夏祭りに参加したり福祉施設を慰問するなどして、館さんたちはフラでいわきを元気づけています。

## 第一幼稚園で運動会開催

四倉第一幼稚園の運動会が9月30日、四倉小学校の校庭で開かれました。昨年は震災や原発事故などの影響で、同小体育馆で行われたため、2年ぶりに屋外での運動会となりました。



トライアスロンの種目で、トンネルから元気に駆け出す園児たち

り、園児たちの一生懸命な姿に、訪れた保護者は大きな声援を送っていました。

## 町に元気を届ける四倉のフラダンススタジオ

今年のテーマはアテネ五輪にちなみ「YOTS UKURAオリンピック」。「体操ニッポン」「メドリリスト参上」「トライアスロン」などの種目があ



9月16日、豊間の「望洋荘祭り」でフラダンスを披露。華麗な踊りでお年寄りを楽しませました

# 四倉掲示板

多くの出会いに感謝して  
干物づくりを再開

ニイダヤ水産

賀沢信さんは平成4年、四倉漁港の近くに同社を創業し、魚の干物を作っていました。震災の日、津波が引いてから工場に戻ると、漁具やがれきなどが流れ込んで全壊の状態でした。4月上旬に避難先の岩手県から四倉に戻って工場の後片付けをしましたが、会社設立時の借金も残っていて、「もう辞めようかな」と思つたそうです。

しかし取引先の「NPO法人素材広場」(会津若松市)から「いわきの干物の技術をなくさないでほしい」と励まされ、同NPOや新潟大学の学生などが同社を支援する「ニイダヤ水産復興プロジェクト」が立ち上がりました。

建物をはじめ冷凍庫、乾燥機などの設備は以前よりも小さくなりましたが、「たくさんの人々に恵まれ、支えられての再開です」と話すように、9月1日の再オープンには、多くの常連客が訪れました。

賀沢さんは、もう一度干物が作れる喜びをかみしめながら、

「今後は、インターネット販売にも力を入れていきたいし、小さい子どもや若者に好まれる干物を作りたい」と話し、新たな商品開発にも取り組んでいます。

ニイダヤ水産

新しくなった会社の前で心機一転、干物づくりに取り組む賀沢さん

「今後は、インターネット販売にい子どもや若者に好まれる干物を作りたい」と話し、新たな商品開発にも取り組んでいます。

「今後は、インターネット販売にい子どもや若者に好まれる干物を作りたい」と話し、新たな商品開発にも取り組んでいます。

## 四倉に12の道の駅とハーレーが集結

リニューアルオープン以来、連日多くの来館者が訪れていた「道の駅よつくら港」。9月もイベントが目白押しでした。

9月9日は、「ふくしま道の駅」交流会主催で『ふくしま「道の駅」フェスタ in よつくら港』が同施設で開かれました。施設前の広場に、県内12の道の駅が出店して「奥会津手打ちそば」「福島牛串焼き」「いわなの塩焼き」などの特産品や、伝統の味を販売しました。

同日は「ハーレーオーナーズミーティング in いわき」も開催され、全国から1,000台を超えるハーレーダビットソンが集まり、オーナーのみなさんも屋台に並んで道の駅の名物を楽しんでいました。



各道の駅ごとに地域色豊かな味を販売して大好評。長い行列が出来た屋台もありました

9月29、30日には四倉海岸での風揚げ大会に併せて、恒例の「よかつべ市」も開催。塙町のみなさんによる、きねつき餅の実演販売のほか、四倉ふれあい市民会議の焼きホタテ販売も人気を集めました。

塙町のみなさんによる、きねつき餅の実演販売のほか、四倉ふれあい市民会議の焼きホタテ販売も人気を集めました。

9月29、30日には四倉海岸での風揚げ大会に併せて、恒例の「よかつべ市」も開催。塙町のみなさんによる、きねつき餅の実演販売のほか、四倉ふれあい市民会議の焼きホタテ販売も人気を集めました。

9月29、30日には四倉海岸での風揚げ大会に併せて、恒例の「よかつべ市」も開催。塙町のみなさんによる、きねつき餅の実演販売のほか、四倉ふれあい市民会議の焼きホタテ販売も人気を集めました。

## 幼稚園でお菓子作りパティシエが復興支援



四倉町出身のパティシエ・木村勝司さんは、東京都国分寺市などで洋菓子店を経営しています。震災後、「自分に出来ることがあれば」と、故郷の復興支援のために、市内の小学校や幼稚園でお菓子作り教室を開いています。

今年7月に四倉第二幼稚園などで開催したのに引き続き、9月26日には同第一幼稚園で行いました。

木村さんが用意したウサギとクマの形をしたメレンゲを、園児が溶けたチョコレートにつけてコーティングしたあと、製菓材料の一つであるマジパンで

## 復興への祈りとともに四倉海岸に凧が舞う



チョコレートの動物に瞳を輝かせる園児たち。木村さんは今後も復興支援を続けていきます



ロープを引っぱると、メッセージが込められた大凧が大空に舞い上がりました

今年は14都県の32団体約90名が参加しました。

台風の接近で天気が心配されました。が、当日は青空が広がり、絶好の凧揚げ日和に。参加者はいわきの復興を願いながら、互いの腕を競い合っていました。

伝統的な和凧や連凧のほか、本」と書かれた四倉町区長会の「がんばれ東日本」と書かれた大凧も力強く秋の大空に舞い上がり、見物客の注目を集めていました。

一般参加の家族連れも海岸を訪れ、小さな子どもが保護者に手伝つてもらいながら凧を揚げる姿も見られました。

## おしらせ

■11月3日(土) 9:00~15:00  
第39回 四倉地区市民文化祭  
芸能の部(四倉公民館)

日頃のサークル活動の成果を発表。四倉中学校の合唱、吹奏楽部の演奏もあります。

■11月10日(土) 8:30~12:00  
四倉小学校学習発表会(同小体育館)

全校生徒が学年ごとに元気に歌や合奏・劇などを披露。

青森県から南は静岡県まで、福島県内だけでなく、北は

が9月30日、四倉海岸で行われました。平成8年の開催以来、四倉地区の秋の風物詩として親しまれている恒例行事です。

福島県内だけでなく、北は



ロープを引っぱると、メッセージが込められた大凧が大空に舞い上がりました

# 亡き夫を思い 書道に励むひととき

豊間の  
金成さん



アパートの一室で書道に励む金成さん。仏壇の夫の遺影がやさしく金成さんの背中を見守っています

3月11日は何かと気ぜわしい日でした。自宅で隣組の会合が予定されており、金成さんが台所で準備に勤しんでいる最中、地震がありました。どうぞ外に出、木にしがみついていました。津波が来るとは思わず、「今日は隣組の会合

金成さんはかまぼこ職人だった夫年泰さん(享年78歳)とともに家業を手伝いつつ、平成元年ごろ書道や川柳に取り組み始めました。書道は師範級の腕前で郷ヶ丘の教室や自宅で子どもたちに習字を教えていました。

金成さんはかまぼこ職人だった夫年泰さん(享年78歳)とともに家業を手伝いつつ、平成元年ごろ書道や川柳に取り組み始めました。書道は師範級の腕前で郷ヶ丘の教室や自宅で子どもたちに習字を教えていました。

ここはどこ?  
目を疑つた町の風景

震災で夫を亡くした豊間字鬼渡路の金成晁子さん(75歳)。自宅は津波で全壊し、それまでの生活は一変してしまいました。避難生活の中で生まれた思いを5・7・5の川柳に込め、「亡き夫を偲ぶ十句「東日本大震災に逝く」を作成。市内で行われた書道展に出品しました。

ここはどこ?

ができないだろう。皆に返す予定だった積立金を渡しに行こう」と思い、家の中からバッグを持ち出して一軒ずつ歩いていました。3軒目の玄関先で話している最中、その家の主が突然海の方を見て叫びました。

「来たぞ! 逃げろ!」。金成さんは訳も分からず、導かれるままに走り続けました。安全な場所まで来て初めて振り向くと「ここはどこ?」と目を覆いたくなるような風景が広がっていました。

墨の匂いに心癒され  
再び筆をとる決意

墨の匂いに心癒され

再び筆をとる決意

精神的にもどん底の日々を送るなか、助けてくれたのが書道の仲間。夫の百カ日が終わったころ、初めて教室に行くと子どもたちが「先生大丈夫?」と出迎えてくれました。「久しぶりに墨の匂いをかいでのほつとした」といいます。

半年後から再び筆をとるようになつた金成さん。亡き夫を思いながら詠んだ川柳を巻子の作品に仕上げました。「書道が今の私の生きる支え」と日々精進しています。

年齢のことも考え、止むを得ず他地区で生活再建をすることを決めましたが、「子孫がいつか再びこの町に住めるよう」と豊間の土地は残すことになりました。「豊間の人はおおらかでみんな玄関なんてあけっぱなし。近所同士仲良く羽を伸ばせる場所なの。またあんな町になつてもらいたい」。金成さんはふるさとの復興を見守ります。

達者でな有難うなど  
笑む遺影

鎮魂花ひまわり跡地

埋めるほど

故郷を問い合わせてくる  
影法師

3月11日は何かと気ぜわしい日でした。自宅で隣組の会合が予定されており、金成さんが台所で準備に勤しんでいる最中、地震がありました。どうぞ外に出、木にしがみついていました。津波が来るとは思わず、「今日は隣組の会合

## 丸又蒲鉾・工場再開に伴い区とお寺に寄付



寄付金を贈呈する高木専務(右から2人目)



9月1日に移転再開した第一工場。現在、薄磯では唯一、紅白かまぼこを生産しています

丸又蒲鉾製造(高木かまぼこと伊達巻を作る定弘代表取締役)は薄磯字三反田157に本社機能を移転させ、9月1日、本格的に操業を再開しました。高木京子専務取締役は「感謝の気持ちを忘れず、前向きにがんばりた

い」と話しています。

本格的に操業を再開しました。高木京子専務取締役は震災前に使用して機器は震災前に使用して

いたもの。被災した傷が生々しく残りますが、「ス

クラップ寸前だったものを二所懸命直してもらつたのた第二工場が津波で全壊。やや高台にあつた第二工場は残つたものの、周囲のあまりの惨状に一度は廃業を覚悟。しかし、市内外から訪れたボランティアや「丸又のかまぼこを食べたい」という人々の温かな声に励まされ、悩みながらも一步を踏み出すことができました。

昨年9月には、第二工場で揚げかまぼこの生産を再開。その後、県の補助金などを活用し第一工場隣に紅白

高木専務が志賀隆一郎区長、鈴木勝康総代長にそれぞれ寄付金を手渡しました。二人は「地域の皆様のために有効に使います」とお礼の言葉を述べました。

9月1日に移転再開した第一工場。現在、薄磯では唯一、紅白かまぼこを生産しています

## お知らせ

### ふるさと豊間復興協議会 広報誌発行

豊間区、ふるさと豊間復興協議会は広報誌「ふるさと豊間だより」を発行しました。620部発行し、区民に郵送や回覧などで配布しました。月1回発行し、区や協議会の活動予定、復興に関する情報などを伝えていきます。A4、カラー4ページ。



発行された「ふるさと豊間だより」の第1号を持つ事務局の渡邊博之さん



沼ノ内地区の説明会。計画の内容は縦覧期間中にも公開されます(11p参照)

県、市は9月18、20、21日の3日間、平沼ノ内・豊間・薄磯の3地区で復興計画の説明会を開きました。

地元からのべ約180名が出席。県は緊急時の避難を第一とした「多重防御による減災」という基本方針のもとに計画している防潮堤や防災緑地、道路の整備について具体的に説明しました。

3地区では防潮堤を海拔7・2mの高さにかさ上げし、背後に高さ6・2～10・2mの防災緑地を設ける予定。道路は沼ノ内～豊間区間の県道豊間・四倉線全長約4・2kmを全幅14mに拡幅し、対面通行できるように整備します。

河川は沼ノ内の弁天川河口に水門を、豊間の諏訪川には河口から全長400mにわたりて河川堤防を設置し、津波による溢水を防ぐ計画。27年度の完成を目指します。

各地区の説明会では、「砂浜の後退を防ぐ方法を考えほしい」「海沿いの道をサイクリングロードとして生かす方法は可能か」などの意見、質問がありました。県、市の担当職員が一つひとつに答え、「今後は魅力あるまちづくりを考えていくことが重要」とメッセージを送りました。

**県・市共催**

## 豊間、薄磯、沼ノ内で 復興計画の説明会

### カラオケで ストレス発散

#### 沼ノ内喜楽会

豊間公民館にこのほど、「全国カラオケ事業者協会」の協力により、カラオケ機器1台が導入されました。

9月12日には沼ノ内老人クラブ・喜楽会(大和田久高会長)の15名が利用し、自慢のどを披露しました。参加した男性は「震災で沈みがちな気持ちが歌つて明るくなつた。すごく

良いことだと思うよ」と大満足の様子でした。

### ゴジラが 高台へ引越し

「3・11を忘れないためのモニュメントとして残したい」と須田滉一が決まりました。

カラオケは2名以上のグループのみ利用可能。詳しくは豊間公民館 0246・39・2938まで。

セブンイレブンいわき豊間店(金成伸一店主)の前に置かれていたゴジラの模型が9月初旬に姿を消しました。

この模型は震災後、金成店長が小名浜大原の「いわき特殊照明天」から譲り受けたもの。同店が防災緑地の建設予定地になつたため、移設先を探し豊間字合磯の介護老人福祉施設「望洋荘」への引



望洋荘祭りでお披露目された怪獣と灯台の模型



### ~住民が一体となって成功へ~ 小学校で復興祈念祭開催!

9月29、30日の2日間にわたって行われ、のべ1,000人以上が来場した「豊間地区復興祈念祭」。その裏側では、会場の準備、案内、駐車場の誘導に汗を流す大人たちの姿がありました。鈴木晴彦実行委員長は「地域が心一つにいろいろな手段で子どもを守り育していく、そのきっかけづくりができたと思う」と語りました。



一生を通じて何度も若返りをするというベニクラゲを復興の象徴として展示



おそろいのスタッフTシャツで会場案内



キャンドルの光で「よま」の字を描いたよま龍灯会のみなさん



子どもに大人気だったアカマリン  
ふくしまの移動水族館



集まった地域のみなさんの笑顔!





リズムに合わせ、全身を使って飛んだり跳ねたりし自分を表現



みんな合わせて腕をあげ、元気いっぱい笑顔で練習



ボウリングのピンに手足が生えたという設定で玉をよける演技の様子

新しい「ジブン」を発見  
震災前より笑顔が輝くように

アメリカで音楽公演と教育活動を開催する「ヤングアメリカンズ」による東北ツアーレイブが9月28、29日、江名中学校で行われました。

昨年、彼らの日本での活動を支援するNPO法人じぶん未来クラブが被災地の子どもたちばかりではなく、新たな教育の仕組みを生み出そうと教員向けのワークショップも行つきました。今回は約30名のメンバーが

アメリカで音楽公演と教育活動を開催する「ヤングアメリカンズ」による東北ツアーレイブが9月28、29日、江名中学校で行われました。

震災前より笑顔が輝くように

## 「ジブン」の表現や人間関係づくり

ワークショップを通じて学ぶ

### 江名中学校

### 「ミニューケーション」 大切な体で学ぶ

同校ではこのほか、9月6、7日と10日の3日間にわたり

コミュニケーション能力の育成、向上を図るため、NPO法人PAVLICを招きワーク

ショップを行いました。演劇の専門家が、体全体を使ったコ

ミュニケーションのとり方を指導。「仲間わけゲーム」や「三角歩き」などゲーム形式で楽しく

学びました。

「今回のワークショップを通じて、みんなで力を合わせやり遂げることの素晴らしさやコミュニケーションの大切さを学

ぶことができました」と長谷川教頭。生徒たちの成長ぶりにも驚いた様子でした。

2日目の締めくくりには、たくさん地域の人たちを前にショーが行われ、一幕目はヤングアメリカンズ、二幕目は生徒たちとメンバーが共演。いきいきとした笑顔で歌やダンスを披露し、会場を盛り上げました。

2日間にわたりワークショップを行いました。まずメンバーがこれから一緒に行うショートを披露。はじめは消極的だった生徒たちも、1日目が終わるころには見違えるほど元気で積極的に張ってみたら、自分にもできることになつており、「勇気を出して頑張ってみた」と自信満々。



新聞紙を丸めて作った棒を、人差し指だけを使って落とさないように体育館内を移動



2人1組になり、手のひらを使って相手を操るゲーム



永崎地区の海岸災害復旧案。ふるさとだよりのブログで大きく見ることができます



住民の安全を第一に考え、意見を交わす県の担当者と住民

## ふるさと復旧のため熱心に議論 永崎、中之作地区懇談会

### 永崎地区

9月3日、小名浜公民館で

開か

れました。

これまで、海岸堤防を海拔7・2mにかさ上げし、大平川、天神前川河口部の水門や、県道海側の駐車場部分に防災緑地などを整備する方針で進められてきました。

海岸堤防のかさ上げなどについては、24年度は測量調査、設計を行い、25年度内に工事着手の予定。防災緑地については、用地買収も含め、これから設計した上で樹種などを決定していく方針。県道

事着手の予定。防災緑地については、用地買収も含め、こ

とができます」と長谷川教頭。生徒たちの成長ぶりにも驚いた様子でした。

「海岸堤防のかさ上げなどについては、用地買収も含め、これから設計した上で樹種などを決定していく方針。県道

事着手の予定。防災緑地については、用地買収も含め、こ

とができます」と長谷川教頭。生徒たちの成長ぶりにも驚いた様子でした。

海岸堤防のかさ上げなどについては、用地買収も含め、こ

とができます」と長谷川教頭。生徒たちの成長ぶりにも驚いた様子でした。

今後、避難路や海水浴場と駐車場について話し合いを重ねていくこととなりました。

### 中之作地区

9月13日、中之作区民館で中之作地区的住民ら約20名と県・市の関係職員が出

席し、復興に向けた懇談会が行われました。

### 永崎地区からのお願い

現在、永崎地区内の家屋解体後の皆様の敷地において、雑草が生い茂り通行の妨げになるなど、周辺環境が悪化しており、地区として大変苦慮しております。

地権者の皆様におかれましては、定期的に除草作業を行うなど、所有地の適切な管理を行っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

行政は、現在、港湾道路の住宅側にある防潮堤を海拔7・2mにかさ上げする案を提示しましたが、住民は防潮堤を道路の反対側に設置してほしいと要望。この復旧工事とともに、街灯も復旧していく予定となつています。そのほか、避難路や防災行政無線などの整備も検討していくこととなりました。

4年生は38名と人数が少ないため、教室での演奏では大きく聞こえても体育館や広いホールでは音が響かない。かつたり、ゆっくりとしたり、ズムのためうまく合わなかつたりと苦戦しましたが、この日のために5ヶ月間一生懸命練習に励み、本番は大成功。



学校が復旧して戻ってこれた喜びを込め、一生懸命演奏する子どもたち

参加することができました。昨年は江名小学校に間借りするなかでの練習、発表でしたが、今年は学校が復旧しましたが、今年は練習、発表で戻つてこれたという喜びを表現したいと長瀬剛さんの「乾杯」を演奏しました。

小名浜方部小学校音楽祭に寄附されました。これを使用し、9月25日、同校4年生は永崎小学校に参加することになりました。

## 学び舎に戻れた喜びを

「楽しかった!」「全力を出した」とうれしそうな子どもたち。担任の先生は「指導している私たちも楽しくなりました。全員で力を合わせてやり遂げるということの大切さを学んでくれたと思いました」と話しました。

## 移転のお知らせ

昨年の東日本大震災により支所庁舎の使用が困難になりましたことから、小名浜武道館で業務を行っていた地区保健福祉センター、小名浜区画整理事務所などが移転しました。

移転先は左記の通りになります。

■ 小名浜地区保健福祉センター	
小名浜花畠町34番地の2	
内線)	0246・542111(代)
(内線)	5246
保育第一係	551162
保護第二係	51177
保健係	5162
福祉係	5162
介護係	5162
庶務係	5162
保育係	5162
保健係	5162
■ 小名浜地区保健福祉センター	5162
小名浜花畠町34番地の2	5162
内線)	0246・542111(代)

■ 小名浜区画整理事務所
小名浜花畠町15番地の1 (小名浜支所2階) 0246・542240

## 中之作プロジェクト祭

- 日時／11月25日(日)13:00～16:30の予定
- 会場／ラトブ6F産業創造館 企画展示ホール
- 参加／無料
- 問い合わせ  
中之作プロジェクト  
(豊田設計事務所)  
0246-38-4848

200年後の人々が見てくれることを願い、熱い思いをそれぞれ瓦に残しました



少しでも多くの方にこのプロジェクトの趣旨を知つても、嬉しいと社団法人福島県建築士事務所協会主催で、現在までの進捗状況の発表や、縄もじり・竹小舞(土壁の下地材)教室を行うことになりました。詳細は左記の通り。

## 未来にメッセージを 中之作プロジェクト

前号でも紹介した、中之作

港前で震災復興まちづくりとして築200年になる古民家の再生を行っている中之作プロジェクト。その一環として、瓦の裏に200年後の未来に向けたメッセージを残そうと、いう取り組みを行つてきました。現在は、屋根の工事に入っています。現在は、屋根の工事に入つておりプロジェクトは一步ずつ着実に進行しています。

## まちの話題

### ■ 永崎保育所運動会

9月29日、永崎保育所(安藤規子所長)の運動会が行われました。一昨年は悪天候、昨年は原発事故の影響で体育館での開催。昨年11月に除染作業が完了したので、今年は3年ぶりに所庭で開催することができました。

秋空の下、綱引きや紅白リレー、大玉ころがしななど16種目が行われ、子どもたちは練習の成果を発揮し元気にかけ回っていました。



赤組と白組に分かれ、一生懸命綱を引つ張り合う子どもたち



「親子の絆」では、子どもが目隠しをした親を、ひもとが声で誘導しました

### ■ 日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏

- 会場 江名中学校体育館
- 日時 10月26日(金) 19:00～20:00
- 料金 入場無料
- 問い合わせ 080-5228-3394(脇本信男)



## 小名浜トピックス No.7

### いわきの魚介類を使える日を信じて 市場食堂再開

昭和14年創業の老舗魚料理店〈市場食堂〉。創業時は小名浜漁港前で営業しており、昭和43年に小名浜魚市場が完成と同時に2階に移転し、観光客や地元の方に長く親しまれてきました。

震災当日、津波が押し寄せてきましたが、板長の迅速な対応で客やスタッフは無事に避難。幸い2階まで津波の影響は及ばなかったものの、店は傾き窓や備品が壊れるなどの被害を受けました。

震災後は、観光客の減少に悩まましたが、祖父の時代から長く愛されてきたこの店を終わらせてはいけないと店舗の修繕、改装を行い昨年6月に営業を再開。しかし、同市場解体のため立ち退きを余儀なくされ、今年2月2日に道路向かい側に移転し営業を再開しました。代表取締役社長の馬場啓一さんは「早く安全ないわきの魚介類を使った料理を提供したい。そして、このまちの復興のために頑張りたい」と意気込んでいます。

小名浜栄町3-1  
0246-54-1144  
営業時間 7:00～15:00  
木曜定休(変更の場合あり)



写真左が馬場社長。席数もメニューも増え、値段もリーズナブルに

## 復興記念碑を設置

# 「佐糠町八幡神社」復興祭開催

佐糠の町とともに歩み続ける

佐糠町の八幡神社は、昨年3月11日に津波が押し寄せ、甚大な被害を受けました。さらに4月の余震で石造りの鳥居が倒れ、神殿は大きく傾き全壊に。

しかし「古くから佐糠町と共に歴史を刻んできた八幡神社。これからも佐糠町の鎮守様であつてほしい」という地域住民の思いもあり、昨年10月から改修工事が始まり、今年7月に工事が完了。鳥居は、鉄骨で造られた茶褐色のものが設置され、神殿も改修を行い、新

しく生まれ変わりました。また、鳥居の脇には復興記念碑が設置されました。

同神社では、5年に1度、戸時代から続くと言われる大祭礼が開かれ、子どもたちによる三匹獅子舞の奉納が行われています。今年は大祭の年ではないですが、9月15日に神社の復興を記念して、獅子舞奉納も行われる復興祭が実施されました。

### ふるさと佐糠を盛り上げよう！

祭礼当日、神社には佐糠町獅子舞保存会や青年会のみなさん、神社関係者、地域住民などが集まりました。

宮川千春宮司による神事が執り行われたのち、開会式では渡邊有利区長が「昨年の地震で大きな被害を受けましたが、みなさんの協力もあ

り、見事に復活できました」と感謝の言葉を述べました。その後「東日本大震災復興記念碑」の除幕式が行われ、新しく奉られた石碑がお披露目されました。

また、子どもたちによる三匹獅子舞「ささら」を披露。笛の音に合わせて五穀豊穣と無病息災を祈願する舞を奉納しました。そして、地区の子どもたちが神輿を担ぎながら「わっしょい！」という元気な掛け声とともに町内を練り歩きました。

「一人ひとりが協力して、佐糠のみんなで作り上げる祭りにしたい」と意気込んでいた渡邊区長。住民が一体となつた祭りは、大成功のうちに幕を閉じました。



八幡神社の復興記念と、震災の記録を後世に伝えるために奉られた「東日本大震災復興記念碑」



八幡神社そばの薬師堂に向かって、町内を練り歩いた子ども神輿

## お知らせ

### 勿来市民会館ホール利用再開

震災の影響で、ホールの利用を中止していた勿来市民会館。今年6月から災害復旧工事が行われ、10月に完了するため、11月1日(木)からホールが利用できます。

なお、利用の際は、同市民会館窓口までお問い合わせください。

勿来市民会館  
☎0246-62-3145

## 住民懇談会

### 地域全体の防災意識向上にむけて

J Aいきいきサロンで、第2回勿来地区住民懇談会が開かれました。主催は、勿来・田人地域包括支援センターで「地域で取り組む防災街作り」と題して行われたもの。勿来駅前自治会や勿来第二婦人会、消防団などから約40名が参加。

6月に開かれた第1回懇談会では「情報不足・連絡手段の改善」や「避難通路を確保・再検討する」などの課題があげられ、今回はその点をふまえて意見交換がされました。

まず、他地区で行っている防災活動を、プロジェクトチームを使って説明。災害時の安否確認として玄関先に色のついたスカーフを垂らす、炊き出し訓練を兼ねて夏祭りを開催する、防災訓練を競技形式にして楽しく学ぶなど、様々な防災活動の事例を紹介しました。

また、身近で行っている防災活動としては、金山町の、災害時に最低限必要なもの



真剣に協議する中で、先日行われた津波避難訓練での反省点などもあがりました

り、今回紹介された事例や課題をもとに防災意識を高めていく方針です。

今後は自治会が主体となり、今回紹介された事例や課題をもとに防災意識を高め、イベントと一緒にできる防災訓練の考案という5つの対応策があげられました。

そこで、紹介された活動をもとに「自分たちの地域でもできるものは何か」を地域住民一人ひとりが検討。それぞれの意見をふまえて①防災チェックシートの作成②安全な避難経路、避難所の確保③地域の方々が防災意識をもてる工夫をする④定期的な避難訓練の実施⑤地区的イベントと一緒にできる防災訓練の考案という5つの対応策があげられました。

9月20日、勿来町閑田の

をリスト化して把握する「防災チェックシート」の活用が取り上げられました。



可愛らしい衣装と、ノリの良いダンスに、会場には歓声と拍手の嵐が

いわき市と射水市は沿岸部にあるという共通点から、海にまつわる歌を合唱。配られた鈴を鳴らしながらかもめの水兵さん」や「夕日」など、誰もが知っている歌を楽しく歌いました。参加者は「避難して、地元のみんながバラバラになってしまってから、交流する機会がなくなってしまったので、とても楽しいです」と満面の笑み。ほかにも、同協議会員が練習を積み重ねてきたという「浦島太郎」のミニ・ミュージカルも披露されました。会場では、射水市の特産品の振る舞いも。笑顔の絶えない楽しい1日となりました。

9月7日、佐糠公民館で「にこお楽しみ会」と題して、地域交流会が開かれました。これは、富山県射水市新湊ボランティア連絡協議会(四方正江会長)の会員16名が「被災地のみなさんを元気づけたい」と復興支援を目的に企画されたもの。市社会福祉協議会・市復興支援ボランティアセンターと連携し、今回の開催に至りました。会場には岩間、佐糠、植田など、近隣に居住する方々、約60名が集まりました。

いわき市と射水市は沿岸部にあるという共通点から、海にまつわる歌を合唱。配られた鈴を鳴らしながらかもめの水兵さん」や「夕日」など、誰もが知っている歌を楽しく歌いました。参加者は「避難して、地元のみんながバラバラになってしまってから、交流する機会がなくなってしまったので、とても楽しいです」と満面の笑み。ほかにも、同協議会員が練習を積み重ねてきたとい

う、「浦島太郎」のミニ・ミュージカルも披露されました。会場では、射水市の特産品の振る舞いも。笑顔の絶えない楽しい1日となりました。

## “みんなで繋がる心と心”お楽しみ会

射水市の特産品をおいしくいただきながら、楽しいひとときを過ごしました



手の込んだ衣装や道具にも負けない見事な演技に、夢中になって見る参加者のみなさん



園部さん(右)と、姪の美香さん(左)。2人で力を合わせてお店を営業しています

定休日	勿来町窪田町通1丁目
0	45
2	2
4	2
6	1
65	3
0	2
2	1
1	3
2	日曜

た。参加者は「避難して、地元のみんながバラバラになってしまってから、交流する機会がなくなってしまったので、とても楽しいです」と満面の笑み。ほかにも、同協議会員が練習を積み重ねてきたとい

う、「浦島太郎」のミニ・ミュージカルも披露されました。会場では、射水市の特産品の振る舞いも。笑顔の絶えない楽しい1日となりました。

オーナーの園部まゆみさん(51歳)は、店を再開させるのを何度も悩んでいたそうです。しかし「オープンを待つてくれているお客さんのためにも、このままじやダメだ」と再開を決意し、昨年10月から新店舗の工事を開始。今年3月に再オープンを果たしました。「わざわざ携帯に電話をかけてくれたり、お店を探して来てくれた常連さんもいました。ここまでこれたのは、支えてくれたみなさんのおかげです」と心温まる思いで話してくれました。

幾度の挫折を乗り越えて…

## 元気いっぱいなこそびと

人々に寄り添い、笑顔と元気を分け合って

相手の話しに耳を傾け、心に安らぎを与える活動をしているボランティア団体、いわき傾聴ボランティア「みみ」の代表を務める安島爵子さん(55歳)。

勿来町関田南町にある自宅が被災しながらも「私に何かできることはないか」といわき南の森スポーツパークなどの避難所を訪問。その後も、社会福祉協議会などを通じて、仮設住宅を訪問し大勢の人たちの心に寄り添いました。

震災から1年半が経ち「あの頃と比べると、みなさんから、自然と笑顔が出てくるようになりました」とこやかに話す安島さん。「正直、何もしてあげられないのは分かっているけれど、みなさんが笑顔になってくれるだけで嬉しい。それが私の力の源にもなるんです」と前向きな思いを話してくれました。



なこ交流スペースでも活動している安島さん(右端)。この日は地域のみなさんとくす球作りを楽しんでいました

なこ交流スペースでも活動している安島さん(右端)。この日は地域のみなさんとくす球作りを楽しんでいました

## 植田駅前に、新たな象徴が完成



いわき駅前や、勿来駅前に設置されている彫刻なども手がけてきた、北郷さんの作品「いざなぎ・いざなみ2012」

10月8日、植田駅前広場に、いわき勿来ロータリークラブ(高萩勝利会長)によって、彫刻作品「いざなぎ・いざなみ2012」が設置されました。

同クラブは昨年、創立50周年を迎えるにあたり、震災による犠牲者の鎮魂と復興を願い「その記憶を何らかの“形”として残すことができないか」と協議し、地元出身の彫刻家である北郷悟さんに協力を要請。加えて、市との連携で「いわき市彫刻のある街づくり事業」の一環として製作は進められました。

なお、同日行われた除幕式の様子は、11月20日発行の「ふるさとだより18号」でお伝えします。

## ふるさと記者が聞く Q&A 県が担う復興の役割について

今回は防潮堤や防災緑地の整備など、住民の安全安心を守る「津波防災まちづくり」の根幹を担う重要な事業が今後どのように展開していくのか、県いわき建設事務所企画調査課に話を聞きました。

### ——県の復興の役割について

県が実施する防潮堤や防災緑地については、市の復興整備計画に示された津波防災まちづくりの考え方に基づき、ハード・ソフトを組み合わせて東日本大震災レベルの津波浸水を防ぐことを目的に計画されています。

市内全域の防潮堤は海拔7.2mの高さにかさ上げするとともに、久之浜、四倉、平沼ノ内・薄磯・豊間、永崎、岩間の市内7カ所の市街地部では、高さ6.2~10.2mの防災緑地を配置する予定です。また、県が管理する2級河川については、河川堤防のかさ上げか、水門を設置するなどして津波の遡上等による浸水を防ぎます。

さらに県道は特に沿岸地域を通る「豊間・四倉線」「泉・岩間・植田線」の2路線をメインに、津波被災地のまちづくりと一体的な整備を図るとともに、観光資源を有機的につなぐ復興道路として整備していく計画です。具体的には車道2車線で

両側に自転車歩行者道を設置する幅員14mの規格の高い道路を計画しています。

### ——9月末現在、計画の進捗状況は?

事務手続きに関しては、防潮堤、河川堤防についてはすでに災害復旧工事として国の認可を受けています。復興交付金の対象となる防災緑地や道路に関しても申請手続きを経て年内にはほとんどの地区で認可が受けられるものと考えております。

### ——今後の日程は?

現在、作業を進めている都市計画決定を経て、来年1月以降、用地取得に向けた個別交渉に入り、25年度から26年度にかけて、すべての復旧・復興工事に着手できるよう進めていきたい。27年度の完了を目指します。

### ——現在の課題は?

先ほど、事業の目標時期を述べましたが、一方で地域の多くの方が被災をしており、生活再建に並々ならぬ御苦労があることも事実です。

復旧・復興事業と被災者の生活再建は、被災地の復興を推進する両輪であり、被災者一人ひとりと向き合い、個別の課題に丁寧に対応していくこと、そして、復旧・復興事業は目的ではなく復興のためのツールであり、そこに住む人々の生活の再建・安定を第一に役割を果たしていきたい。

そして、地域を最も知っている皆様の知恵と工夫を活かしながら、快活で笑顔があふれるまちづくりを支援してまいりたいと思います。

### お知らせ

#### 復興計画の縦覧について

- 期間:10月19日~11月2日(土日を除く)
- 時間:8:30~17:15
- 場所:県いわき建設事務所  
市都市計画課  
市小名浜区画整理事務所  
市勿来区画整理事務所  
県小名浜港湾建設事務所

## 浜○かふえと芋煮会で親睦を深め合う

中央台高久第一応急仮設住宅第一集会所前で9月9日、同自治会、浜○かふえ、市社会福祉協議会の共催で芋煮会が開かれました。昨年、浄土宗福島教区浜通り組青年会が立ち上げた浜○かふえは、同住宅の住民にお茶を振る舞うなどの交流を続けています。

芋煮会では豚汁、バーベキュー、おにぎり、かき氷などが振る舞われたほか、同第二集会所前では、元ブルーハーツのドラマー梶原徹也さんによる打楽器製作と音遊びなどもあり、住民のみなさんは親睦を深めていました。



秋空の下、住民同士、和気あいあいと芋煮会を楽しみました

## ふるさとからの お知らせ

※各イベントの詳細は、中面記事をご覧ください。

### 久之浜・大久

- 久之浜・大久地区市民文化祭  
(11月3日9:00~・久之浜公民館)
- 海竜の里センター 第6回子ども祭り  
(11月3日未定・海竜の里センター)
- 新しい久之浜の歌 練習  
(10月27日、11月10、17日13:00~・久之浜第一小学校音楽室)
- まちづくりコンサート  
(11月24日午後予定・久之浜公民館)

### 四倉

- 四倉地区市民文化祭  
◆芸能の部(11月3日9:00~・四倉公民館)
- 四倉小学校学習発表会  
(11月10日8:30~・四倉小学校体育館)

### 平

- 田代ともやワンマンライブVol.1  
<10月27日17:00~・MUSIC&Bar Queen>
- ガレキに花を咲かせましょうプロジェクト  
<10月28日10:00~・薄磯区災害復興本部前集合>
- ふるさと豊間復興協議会・中間報告会  
<10月28日14:00~・未定>
- 豊間公民館まつり  
<11月3日9:00~・豊間公民館>

### 小名浜

- 磐城地区総合市民文化祭  
◆芸能の部(10月27日13:00~、28日10:00~・小名浜市民会館)
- 日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏  
<10月26日19:00~・江名中学校体育館>

### 勿来

- 勿来地区市民文化祭  
◆展示の部<10月27、28日9:00~・植田公民館>
- ◆芸能の部<11月11日10:00~・勿来市民会館大ホール>

### 生活支援相談員からメッセージ

#### いつも心にありがとう!!



内郷と好間地区を担当して半年が経ちます。内郷雇用促進住宅集会所で定期的に開催している「お茶のみ交流会」には、毎回、たくさんの方が参加してくれおり、支援する側の私たちが、「頑張っているね」「大変だね、いつもありがとう」という言葉をいただき、逆に元気をもらっています。

私たちはみなさんの笑顔が何よりうれしいです。



#### プロフィール

氏名 原田 栄子  
担当地区 内郷・好間  
星座 魚座  
血液型 B型

いわき市社会福祉協議会

いわき市復興支援ボランティアセンター

いわき市平字菱川町1番地の3

☎0246-38-6631

<http://iwakisaiagavc.blog.fc2.com/>

携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。



### ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

●メールの方/furusato@asally.co.jp

●携帯電話からのメール

QRコード読み取ってください。→

●FAXの方/☎0246-26-5157

●おたよりの方/下記編集室まで

いわきあいあい情報発信中!!

いわきあいあい 検索



Click

### いわき市 ふるさとだより 第17号

平成24年10月20日発行

●発行:いわき市

●編集:有限会社 いまあじゅ ふるさとだより編集室

●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3

プリンセス・アイ1F

Tel & Fax: 0246-26-5157

Mail: furusato@asally.co.jp

<http://www.furusatodayori.com>